独立行政法人 国際協力機構

草の根パートナー型

平成20年度第1回　採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	フィジー
2. 事業名	貧困沿岸村落における住民参加型生計向上プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	フィジー国始め大洋州の島嶼国の多くは、近年の人口増加に伴い国民の食料確保が大きな課題となっている。フィジー国ビティレブ島北部沿岸域は、サトウキビ栽培以外の産業が無く、沿岸漁業に依存した貧困農漁村が点在する。沿岸水産資源は、乱獲やダイナマイトによる違法漁業により、資源の減少が顕著である。最近になり、北部沿岸域の潮間帯で養殖に適したミルクフィッシュ稚魚が見つかった。この魚は成長と共に沿岸から離れて行くため、沿岸域での漁獲高は少ない。フィリピンやインドネシアは、数百年前からこの稚魚を養魚池で養殖して国民の重要な食料としている。ミルクフィッシュ稚魚の発見により、住民の間に養殖振興への期待が高まっている。しかし、開発能力が脆弱であり、ミルクフィッシュ養殖開発を図るためには全面的な支援が必要である。フィジー水産局は、本プロジェクトをミルクフィッシュ養殖開発の“モデルケース”にする考えである。
4. 事業の目的	貧困対策としての食料の安定生産を目的とした、施肥による粗放的なミルクフィッシュ養殖を住民参画のもとで実現する。生産物は住民に配布すると共に、試験販売を行い、持続的なミルクフィッシュ養殖の経済性を検討する。
5. 対象地域	ビティレブ島北部ラ県ビタワ村
6. 受益者層	ビタワ村住民及び水産局職員
7. 活動及び期待される成果	【活動】 （1）小規模養魚池の建設（計0.7ha）、（2）天然種苗の採捕、（3）養殖生産試験、（4）生産物の食用としての評価、（5）販売・流通の可能性調査。 【期待される成果】 （1）ミルクフィッシュが食料として養殖生産される。（2）養殖されたミルクフィッシュがビタワ村住民に自家消費される。（3）試験販売を通じ、ミルクフィッシュ養殖の経済性が試算され、生産計画が作成される。
8. 実施期間	2009年8月～2011年8月（2年間）
9. 事業費	19,996千円（予定）
10. 事業の実施体制	（株）国際水産技術開発（FAI）と多分野専門家を擁するJECKAは、プロマネの指揮下、円滑に業務を進捗させるとともに、実施・運営面で持続可能事業としての支援を行う。ビタワ村に養魚管理チームを結成し、生産・運営・販売面に関する技術移転を行う。プロジェクト開始時から水産局と連携を図ると共に、南太平洋大学等の域内国際機関、現地NGOらとネットワークを構築し、本事業の成果を確実にする。バックアップ体制としては、フィリピンおよびキリバスで実施されているミルクフィッシュ養殖のプロジュクトに関わっているFAI社員が必要に応じて技術的支援を行う。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	（1）株式会社 国際水産技術開発（FAI） （2）NPO法人JECKA（JICA Experts Conference Kanagawa Associates）
2. 活動内容	（1）途上国での水産ODA事業としての技術移転ならびにコンサルタント業務 （2）ODA協力、途上国の自立支援他、国際協力に係る事業